# 世代を超えたかかわり

3年　川口　紗英

皆さんは都道府県別の幸福度ランキングを知っていますか。これは、基本指標である人口増加率、一人当たりの所得、選挙投票率、食糧自給率、財政健全度と、健康、文化、仕事、生活、教育の分野について分析した結果です。このランキングで、富山県は全国何位だと思いますか。正解は、全国第四位です。なぜ富山県はこれほど上位にランクインしているのでしょうか。

調べてみると、さまざまな理由がわかりました。高校生の就職率は全国第一位、持ち家率は全国第二位、自家用車の普及率も全国第二位、三世代同居率は全国第五位です。この中で、私が特に注目したのは三世代同居です。

では、三世代同居とはどのようなものなのでしょうか。メリットとしては、家事や育児を家族が協力して行える、将来の介護や見守りがしやすく負担が減る、光熱費や住居費を抑えられる、日常での会話が増える、安心感が得られる、ということが挙げられます。その一方で、デメリットとして、プライバシーの確保が難しい、生活リズムの違いによりストレスを感じることがある、介護と育児が重なり負担が大きくなる、ということが挙げられます。

私が三世代同居に注目したのは、温かく居心地のよい家庭や社会の実現には、高齢者の方々とのふれあいが重要な意味をもつと考えたからです。

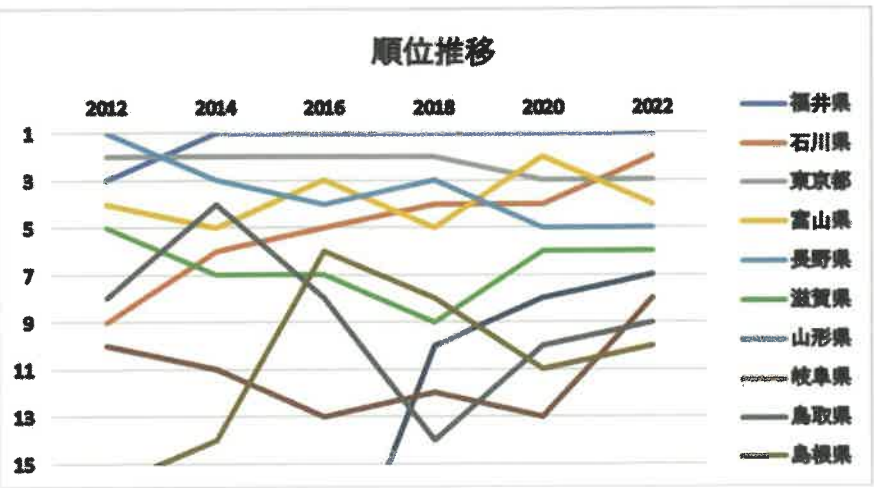
昨年、私は「社会に学ぶ『十四歳の挑戦』」で、高齢者が主に入院している病院で、職業体験をしました。その活動を通じ、私は様々な世代の人々がふれあい交流することは、それぞれ個人の成長につながるのだと感じました。高齢者にとっては、普段あまり関わることのない年の離れた若い人と話したり散歩したりすることは、新鮮な刺激になったようです。一方、認知症の方と話したり、介護したりする中で、様々な障害を抱えた高齢者と接することは簡単ではないということも感じました。認知症の方との会話では、相手の話を全て肯定し、悲しい思いや不安を感じさせないようにしたり、話しかけるときには内容が伝わりやすいように言葉を慎重に選び、ゆっくり語りかけたりしました。

この体験の後、私は、祖母など身近な人が職業体験で出会った患者さんたちのように、病気やけがをしたらどうなるのだろうと考えるようになりました。私の家の近所には高齢者が多く暮らしています。そして、家庭菜園のような共有の畑で農作業をしています。その高齢者の多くは一人暮らしか老夫婦の二人暮らしです。

この中で、昨年から今年にかけて病院通いになった人や入院した人がいました。そして、そのような人の身の回りの世話は、離れたところに住んでいる家族が数週間に何度か訪ねてきてしていたようでした。また、畑の世話は、近所の方が代わる代わるしていました。そのおかげで、作物は順調に育っていきました。このことを受けて、私は何かあったときに身の回りの世話をできる人が近くにいないと、本人にも世話をする人にも、大きな負担がかかることを知りました。また、家族という縦のつながりと共に、近所の方や友達といった横のつながりも重要なのだと感じました。

家族三世代の同居は、すぐに実現できることではありません。けれども、将来設計の中に加えてみてはどうでしょうか。そして、普段から頻繁に連絡を取り合ったり、長期休暇の時には会ったりして絆を深めておくことが大切だと思います。

私は温かい家庭や社会を築くために、身近な人や世代を超えた人との関わりを心がけて生活していきたいと考えるようになりました。明るい社会、過ごしやすい社会に向けて、自分にできることを少しずつ行っていきたいと思います。

※「都道府県別幸福度ランキング」について

一般財団法人日本総合研究所が2012年から隔年で実施している「全47都道府県幸福度ランキング」とのこと。都道府県の幸福度を評価分析するための5つの基本指標（人口増加率、一人あたり県民所得、選挙投票率、食料自給率、財政健全度）と5つの分野（健康、文化、仕事、生活、教育）の50の指標の合計55の指標を評価分析し、都道府県の幸福度のランキングを解析したものです。